



乗って

支えて

わたしたちの公共交通

多くの人が「あって当たり前」と感じている公共交通。特に今、地方や郊外の路線バス・タクシーが存続の危機に直面しています。かつては「利用者の減少による赤字」が主な問題でしたが、現在、それに加えて「運転手不足」という問題が発生しています。

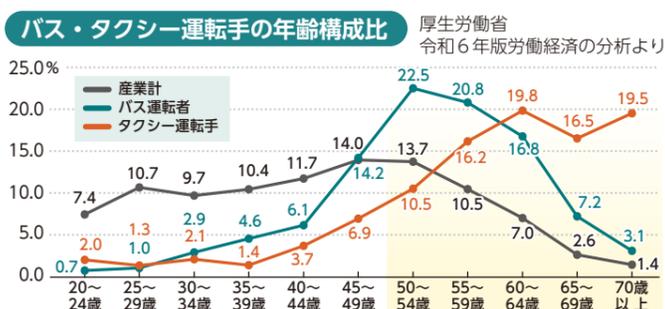
特に緊急性の高いバスやタクシーをとりまく現状や、運転手不足の現場で何が起きているのかを知り、大切な移動手段を支えるために、今私たちに何ができるのかを考えてみませんか。

バス・タクシー業界の現状

バスやタクシー運転手の平均年齢は高く、退職者が増え続け、2030年にはバス運転手が全国で3.6万人不足するとされています。

たとえ利用者がいても、運転手がいなければ、バスやタクシーは走りません。事実、運転手不足を理由に全国各地で路線の減便や、配車制限が相次いでいます。

これは、交通事業者だけの問題ではなく、私たちの移動手段を確保するために、一人ひとりが考えるべき問題です。



インタビュー まちと歩む、プロの仕事

三重交通株式会社
バス運転手 伊東さん(勤続3年目)

家の前を走るバスを見て育ち、運転手に憧れました。受験資格特例講習で19歳で大型二種免許を取得し、令和6年9月から路線バスを運転しています。慣れ親しんだ地元を走る毎日には本当に楽しく、お客様からの「ありがとう」の一言は、何よりのやりがいです。道幅の狭い住宅街なども、路線バスが運行しているのは、そこにお客様がいるということ。地域の生活と歴史の積み重ねが今の運行ルートを作っていると思うと、感慨深いです。そんな道走る先輩たちの運転技術、加減速のスムーズさや、信号の読みには衝撃を受けました。私もプロとして、心地よい加減速や定時運行を心掛けています。将来は、こどもの頃の自分に胸を張れるような、親切な運転手を目指して、これからも走り続けます。



1日の(仕事の)流れ



大型二種免許支援制度もあります。詳しくは、三重交通ホームページを参照

本市が支える移動の仕組み

四日市市自主運行バス

民間バス事業者では運行が難しくなり廃止された路線を中心に、市が費用を負担してバス事業者に委託し運行しています。

自主運行中の路線

- ・山城富洲原線
- ・神前高角線
- ・磯津高花平線



四日市市デマンドタクシーの運行

市街化調整区域内の交通空白地域に住む人の公共交通利用環境改善のため、予約に応じてタクシーを運行しています。

利用には条件がありますので、まずはお問い合わせください。



こにゅうどうくんライナー

利用者の減少に伴い廃線となった長沢線(近鉄四日市-市南西部)で、三重交通と連携し、「こにゅうどうくんライナー」を運行しています。

沿線の病院や商業施設にバス停を設けるなど、日常生活に便利な路線となるよう工夫をしています。

菰野町と連携

「かもしか号」が近鉄湯の山線桜駅に乗り入れ

令和8年4月から、菰野町のコミュニティバス「かもしか号」が桜駅に乗り入れを開始します。私たちの生活は市境を越えて広がっています。今後も近隣市町との効率的な連携を進めていきます。



市では、これらの取り組みにより公共交通がより利用しやすい環境づくりを進めています。公共交通は、環境に優しく、渋滞緩和や交通事故リスクの低減などさまざまなメリットがあります。私たちの生活を支える重要な役割を担うバスやタクシーなどの公共交通を、今後も継続していくためにも、**運転手の確保や、利用する市民の支えが重要**となります。

私たちにできること ~今日からできる 支える アクション~

1 公共交通に関心を持つ



公共交通は、「あって当たり前」のものではなくってきています。私たち市民も公共交通を支える一員です

2 乗って「意思表示」



バスやタクシーに乗ることは、公共交通は必要だという意味表示。週1度の利用でも大きな効果があります

3 遅延を防ぐ



ICカードの利用やスムーズな乗降を心掛け、定時運行に協力しましょう

●この記事についてのお問い合わせ・ご意見は 都市計画課公共交通推進室 ☎ 354-8095 FAX 354-8404